

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査（丸山台小学校の結果）

平成 30 年 4 月 17 日に実施された全国学力・学習状況調査の本校の調査結果をお知らせします。

【教科別学習状況調査結果】

- ・国語、理科の調査結果は、全国や神奈川県の前年調査結果とほぼ同じであった。
- ・「知識」に関する問題（A）では、算数の調査結果で全国や神奈川県の前年調査結果よりも 5 ポイント程度上回り良い結果であった。
- ・「活用」に関する問題（B）では、どの教科も全国や神奈川県の前年調査結果よりも上回っていた。特に、国語では 2 ポイント、算数では 7 ポイント程度上回り良い結果であった。
- ・理科の調査結果は、全国や神奈川県の前年調査結果と比較すると、「知識」に関する問題で平均正答率が下回っていて、「活用」に関する問題で平均正答率が上回っている。

【全国の正答率と比較して結果に特徴のある問題】

国語 A（知識）	全国よりも 8 ポイント以上上回った問題 ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う。	全国と同様に課題のある問題 ・文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く。
国語 B（活用）	全国よりも 4 ポイント以上上回った問題 ・計画的に話し合うために、司会の役割について捉える。	全国と同様に課題のある問題 ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
算数 A（知識）	全国よりも 16 ポイント以上上回った問題 ・除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している。	全国と同様に課題のある問題 ・円周率の意味について理解している。
算数 B（活用）	全国よりも 11 ポイント以上上回った問題 ・棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。	全国と同様に課題のある問題 ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していけることを解釈し、それを記述できる。
理科	全国よりも 12 ポイント以上上回った問題 ・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。	全国と同様に課題のある問題 ・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。

【生活習慣・学習習慣（質問紙調査結果）】

- 全国や神奈川県平均と比べて、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が高い。
- 全国や神奈川県平均と比べて、学校の授業以外に、普段から勉強をしている児童の割合が高い。
- 全国や神奈川県平均に比べて、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童の割合が高い。
- 全国や神奈川県平均と比べて、地域社会などでボランティア活動に参加したことのある児童の割合が高い。
- 全国や神奈川県平均に比べて、新聞を読んでいる児童の割合が高い。
- 全国や神奈川県平均と比べて、テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている児童の割合が高い。

【成果と課題（授業改善に向けて）】

- 国語B（活用）の問題において正答率が高いのは、全国や県の平均よりも普段から勉強をしている児童が多いというクロス集計の結果と相関があると考えられる。
- 算数A（知識）の問題において正答率が高いのは、本校の複数の職員による学習支援が、児童一人ひとりの学習に適していると考えられる。
- すべての教科において、「活用」に関する問題（B）の方が、「知識」に関する問題（A）よりもよい傾向にあったことから、基礎的な知識及び技能の定着に課題があると考えられる。今後は、基礎・基本の習得のために、反復学習を進めたり、児童が見通しをもてる計画的な授業の展開を重視したりしていくよう努める。
- 国語では、自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分に伝わるように書くために、複数の資料から情報を得て、詳しく書けるように努める。情報の何をどのように取り上げて、詳しく書けば効果的であるかを整理して書くことができるよう指導する。また、話し手の意図を考えながら聞いたり、相手に伝わるように話したりする体験を増やすことで、よりよく表現する力を伸ばすように努める。
- 算数では、日常生活の中で、主体的に問題を見いだして情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察したり、考察した結果から新たな問題を見だし、さらに情報を収集し表やグラフなどに整理し直して考察したりすることができるよう努める。
- 理科では、実験結果を根拠とした考察を行い、検討していく時間を確保していく。また、実験結果を整理して結論をまとめる際に、結果を事実としての確にとらえ、事実から解釈したことを「実験の結果からいえること」としてまとめられるよう努める。